

mitapoとは？

ポイントではなく、御嵩との「関わり」を貯める。

町のイベントに参加する、学ぶ、地域を応援する、お店を利用する—。

そんな一つひとつの小さな行動を「御嵩とのつながり」として可視化し、次の関わりへつなげる仕組みです。



1. ロゴコンセプト

つながる。みつける。育っていく。
人と人、地域をつなぐ、新しいカタチ。

mitapo(みたぽ)のロゴは、「コミュニケーション」と「成長」を一つのシンボルに融合したデザインとしました。中心に描かれた吹き出しは、人々の声や想い、地域の情報が集まり、互いにつながっていくコミュニケーションを象徴。その吹き出しから伸びる木(芽)は、人との出会いや情報とのつながりから生まれる、新しい発見や可能性、そして未来への成長を表しています。

mitapoは、人と人、人と地域をつなぐことで、これまでになかった出会いや気づきを生み、そこから新しい価値が育っていく。

このロゴには、そのようなブランドの姿勢が込められています。

吹き出し

吹き出しは、「声」「想い」「情報」「対話」を表します。誰かが発信し、誰かが受け取り、そこから新しいコミュニケーションが生まれる。一方向の情報発信ではなく、人と人が互いにつながる場であることを表現しています。

木・芽

吹き出しから伸びる芽は、「つながりから生まれる成長」を表しています。人との出会い、情報との出会い、地域とのつながり。一つひとつの小さな接点が、新しい可能性の芽となり、やがて未来の価値へと育っていくことを表現しています。

み「み」

中心に配置された「み」は、みたけの「み」、みんなの「み」としてmitapoのブランドを象徴するアイコンとして機能します。日本語の「み」を大きく、親しみのある形で表現し、人の温度を感じられる身近な存在であることを表しています。

mitapo

ロゴタイプは、すべて小文字の「mitapo」で構成。小文字による柔らかなタイポグラフィは、堅苦しさや距離感を抑え、親しみやすく、話しかけやすいブランドであることを表現しています。

また、シンボルの丸みとロゴタイプの柔らかな形状を呼応させ、ブランド全体に一貫した印象を持たせています。

2. ロゴバリエーション

基本ロゴ（カラー）



基本ロゴ（枠あり）



横組みロゴ（カラー）



横組みロゴ（文字のみ）



単色ロゴ（ポジ）



単色ロゴ（ネガ）



3. カラーガイド

ペロケ — Perroquet 「関わりが色になる。」

みたぽの色は、純粋な「緑」ではなく、赤と青が混ざった緑—ペロケです。それは、御嵩という地域が本質的に「混ざる地域」だから。文化と人々が行き交った中山道の宿場町として、都市と自然、町民と外部からの人—様々な関わりの中で、御嵩の価値が育まれてきました。みたぽは、その関わりを可視化し、楽しく増やす仕組み。また、フランス語で「オウム」を意味するペロケのように、人の声の人から人へ自由に伝わり、その一つひとつの関わりが、御嵩の中に新しい芽を吹かせていく—みたぽの色は、その「関わりそのもの」として、ペロケを採用しました。

メインカラー（mitapo グリーン）



R87 G170 B91
C67 M10 Y79 K0

サブカラー（文字）



R56 G57 B60
C80 M75 Y70 K35

4. 使用上の注意

- ・ロゴの縦横比や要素の配置を変更しないでください。
- ・指定のカラー以外での使用は避けてください。
- ・視認性を損なう背景(模様・写真等)の上に配置しないでください。
- ・ロゴの変形、回転、影の追加などの加工は行わないでください。